

# 民は聖書に耳を傾けた

ネヘミヤ記 8 : 1 - 12



司祭 ヨハネ 井田 泉

2016年1月24日

顕現後第3主日

西大和聖ペテロ教会にて

今から 2500 年近く前、ここはエルサレム、水の門の前の広場です。まだうす暗いうちから、たくさんの人々が集まっています。大人ばかりか少年、少女もいます。今日は大きな礼拝が捧げられるのです。今ようやく夜が明けようとするところです。

当時のイスラエルまたエルサレムは、大きな困難の中にありました。ユダ王国が滅亡して、1 万 5000 人くらいの人々がバビロンに強制的に連れて行かれたのが 150 年くらい前です。新しく起こったペルシアのおかげで多くの人々が帰国しました。非常な努力の末にエルサレムの神殿も再建できました。城壁の修復も完成しました。ところがしばらくすると、人々の気持ちは冷えてきました。目標を失ったからでしょうか。

国土の大半は荒廃したままです。貴族や役人、富める人々が弱い立場の人々を犠牲にして力と富を蓄え、多くの貧しい人々は奴隷とされてしまいました。礼拝はただ形式的に守られているだけです。かつては信仰の情熱を持っていた人たちも、今は元気を失っています。

こうした時、エズラという祭司がバビロンから帰国しました。エズラはこの現状を嘆き、何とかこれを打開したい、生きた信仰の共同体を再建したいと願いました。彼は人々に呼びかけ、準備を重ねて、今日の礼拝に至ったのです。「このままではいけない」と思う人々が多かったのでしょうか。夜明け前から集まった会衆の空気は、いつもとは違っていました。

8章の冒頭はこう書かれています。

「民は皆、水の門の前にある広場に集まって一人の人のようになつた。」

「一人の人のようになつた」という言葉に、何か真剣なものが感じられます。神の言葉を求めているのです。

「彼らは書記官エズラに主がイスラエルに授けられたモーセの律法の書を持って来るように求めた。」(8:1)

「**モーセの律法の書**」、聖書を聞きたいと人々は願ったのです。

そこで祭司エズラは会衆の前に律法の書を持って来ました。彼は、この時のために用意された木の壇の上に立ちました。皆が見守る中、エズラは聖書の巻き物を開きました。すると皆が立ち上がりました。エズラが神をほめたたえると、人々は両手を挙げて、「アーメン、アーメン」と一緒に唱えました。会衆はひざまずき、顔を地に伏せて主を礼拝しました。神の言葉を聞きたいのです。印刷された聖書などありません。今、ここで聞かなくては機会を失います。

聖書の朗読が始まりました。

しかし多くの人には意味がよくわかりません。ヘブライ語。古い言葉です。自分たちの先祖が、つい100年か150年前までずっと使いつづけてきたはずの言葉なのですが、よく理解できないのです。けれども幸いなことに、朗読は少しずつ区切られ、今の自分たちの言葉であるアラム語に通訳してくれる人がいます。分かりにくいところはその意味を説明してくれます。それ

で皆は聖書の意味を理解することができました。

聞きながら、泣いている人がいます。一人や二人ではありません。皆、泣いているのです。聖書をとおして神が、自分たちに語りかけておられるのを感じたからでしょう。ほんとうはこれを求めていたのです。心が痛みました。自分たちがいかに神から離れていたかを感じて、泣けてしかたがありませんでした。広場は泣き声の海になっていました。

**「泣くのをやめなさい」**

という声がしました。

**「今日は、あなたたちの神、主にささげられた聖なる日だ。嘆いたり、泣いたりしてはならない。」(8:9)**

祭司エズラの声です。

聖書の朗読が終わりました。礼拝は終了です。正午になっていました。ずっと皆、夜明けから今まで、6時間くらい立って聖書の朗読を聞いていたのです。

エズラの声がまたしました。

**「行って良い肉を食べ、甘い飲み物を飲みなさい。その備えない者には、それを分け与えてやりなさい。今日は、我らの主にささげられた聖なる日だ。悲しんではならない。主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」(8:10)**

用意のない人と一緒に、人々は食べ物、飲み物を分かち合い

ました。「甘い飲み物」とはぶどう酒のことでしょう。嘆きと涙は、今は喜びとなりました。神がわたしたちを愛しておられること、自分たちを見捨ててはおられないことを知ったからです。「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」

わたしたちも今日、神さまを礼拝するために集まりました。聖書の言葉を聞くために、また神の祝福のパンと杯を、「**良い肉を食べ、甘い飲み物を飲む**」ために集まりました。もしそうであるなら、2500年前のあのエルサレムの水の門の前の広場に集まった人々と、わたしたちは同じなのです。

わたしたちも困難を経験します。失望します。情熱が冷えます。解決不可能と思えることを抱えます。しかしそうであればこそ、聖書の言葉を聞きたい。神さまが生きておられることを知りたいのです。もしわたしたちが自らの誤りに気づいて心が痛むようなことがあったとしたら、それは幸いなことではないでしょうか。神さまがわたしたちをみもとに引き寄せておられるからです。

あの時、エルサレムの水の門の前の広場で起こったことが、ささやかであっても、わたしたちにも起こってほしい。神の呼びかけを伝えるために熱心に聖書の朗読をするということ。また熱心に聖書の朗読を聞き、その意味を理解するということ。わたしたちの痛みと祈りと聖書の言葉が通じ合うとき、あのエズラの言葉が響きます。

「今日は、我らの主にささげられた聖なる日だ。悲しんではな  
らない。主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」  
(8:10)

祈りましょう。

神さま、わたしたちを、あなたのみ言葉に耳を傾ける者とし  
てください。自分の過ちを知って嘆く者としてください。悲し  
みから喜びへと招き導いてください。あなたを喜び祝うことが  
わたしたちの力であることを教えてください。イエス・キリス  
トのみ名によってお願いいたします。アーメン